

第5章 施策の具体的方向等

基本目標1

心豊かにたくましく未来を生きる甲斐っ子づくり

基本方針1 成長の基盤となる資質・能力の育成

施策項目(1) 確かな学力の育成

現状と課題

新しい時代に求められる資質・能力の育成に向け、各学校において学習指導要領の趣旨を踏まえた教育の実施が求められています。

今後は、「個に応じた指導」の充実がこれまで以上に重要であるとされており、子どもが主体的に学習を調整することができるよう促していくことが必要です。

目指す方向

主体的・対話的で深い学びの授業実践を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身に付けるとともに、児童生徒の学びに向かう力を高めます。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
 ① 基礎的・基本的な知識及び技能の習得と定着	授業内容の工夫・改善の推進	個に応じた、わかりやすく楽しい授業の実施
	「家庭学習の手引き」や「家庭学習記録カード」等の活用	家庭と学校の連携を通じた家庭学習の充実
	「中学生対象の自学講座」の開催	- 学習習慣の確立 - 基礎的・基本的な知識や技能の定着
	学校教育支援員・学力向上支援スタッフの複数配置による指導の充実	児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導の充実

	内容	目的及び期待される効果
 ② 思考力・判断力・表現力等の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善	生涯にわたって能動的に学び続ける態度の育成
	課題解決型学習の積極的な導入	知識・技能を活用した思考力・判断力・表現力等の育成
	研究推進校による公開研究会や拡大校内研究会を通じた確かな学力の育成の取組発信	授業のあり方についての知見を共有することを通じた学力の向上

	内容	目的及び期待される効果
③国語力の向上・言語活動の充実	● 小学1～3年生を対象とした国語教材の公費補助	● 低学年の段階からの漢字等の言語に対する関心や意欲の向上 ● 言語力・語彙力の向上
	● 「言語活動ハンドブック」や「新聞ワークブック」等の活用による言語活動を重視した授業の実施	● 論理的思考力や表現力の向上
	● 授業における学校図書館の活用	● 読書活動の推進による豊かな感性、表現力、想像力の育成

	内容	目的及び期待される効果
④外国語教育・理数教育の推進	● ALT(外国語指導助手)の配置の拡充、英語専科教員、デジタル教材等の活用	● 英語に親しみ、英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
	● 授業における数学的活動や実験・観察等の充実	● 算数・数学及び理科に対する興味・関心の向上 ● 論理的思考力や科学的探究心、問題解決能力、創造性の育成

	内容	目的及び期待される効果
⑤情報活用能力の育成	● 課題解決型の学びや探究的な活動における情報及び情報技術の活用	● 情報活用能力などの学習の基盤となる資質・能力の育成
	● コンピュータや情報通信ネットワークなどのICTの活用環境の整備とこれらを活用した学習活動の充実	● 情報活用能力及びプログラミング的思考の育成
	● ICT教育推進計画に基づいた情報教育の推進	● 情報を収集・判断・分析し、発信・伝達できる情報活用実践力の育成 ● 望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度の育成
	● デジタルリテラシーの育成	● デジタル技術を理解し、情報と情報技術を適切に活用する能力の育成

	内容	目的及び期待される効果
⑥命を守る教育の推進	● 学校の教育活動全体を通じて行う防災教育の実施	● 多種多様な防災に関する教育の充実
	● 実践的な避難訓練や、防災・防犯・交通安全教育などの実施	● 危険に際して自らの命を守り抜くための主体的に行動する態度の育成
	● 地域で起こりうる災害等について考える機会となる防災教室や社会科授業の実施	● 自助・公助・共助の観点から、安心して安全な社会づくりに貢献しようとする意識の向上

	内容	目的及び期待される効果
⑦主権者教育の推進	● 授業や児童会・生徒会活動、諸行事等における啓発教育の充実	● 社会を担う一員としての資質・能力の素地の養成

	内容	目的及び期待される効果
⑧消費者教育の推進	● お金の使い方や食品ロスについて学ぶ「子ども消費者講座」の開催	● 主体的に生活を工夫できる自立した消費者の育成



目標となる主な指標

指標	R5年度の 現況値	R11年度の 目標値
「国語の授業の内容はわかりますか」の設問に肯定的に回答した児童生徒の割合	小 89.0% 中 79.7%	小 95.0% 中 95.0%

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています



施策項目(2) 豊かな心の育成

現状と課題

道徳の授業の充実を図るとともに、「甲斐っ子の宝」[※]の取組を推進し、基本的な生活習慣の確立や規範意識が向上しています。

学校教育を通じて、子どもたちの豊かな情操や道徳心を培いながら、全国で増加する不登校の問題について、いじめとの関わりも含め、実態を把握し対応を講じる必要があります。

目指す方向

各教科等の授業や特別活動、道徳教育や体験活動、読書、多様な表現や鑑賞の活動などの学校教育活動全体を通して、全ての児童生徒が自己有用感を感じ、他者を理解し、多様性を尊重し、協力し合うことができる児童生徒の育成を目指します。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
 ①道徳教育の推進	道徳科を中心とした、各教科との関連を明確にした指導計画の作成	学校の教育活動全体を通じた道徳教育の充実
	学校生活の中で、自分と他者との関わりを見つめる「しなやかな心の育成」アクションプラン等、県が実施する施策と連携した取組の推進	豊かな心や人間性を育む活動の推進
	- 学校や地域の実情に応じた道徳の授業公開 - 地域の方たちから協力を得て行う道徳の授業 - 地域ぐるみで取り組む道徳的実践活動	- 地域との連携による道徳教育の推進 - 世代間交流による社会性の育成

※「甲斐っ子の宝」：教育委員会と市小中学校生徒指導担当者が平成27年度から、子どもたちの生きる力や心を育み、社会で通用する力を身に付けることを目指して取り組むプロジェクトのこと。

	内容	目的及び期待される効果
 ②体験活動や読書活動の充実	● 地域の協力を得て行う体験的学習・社会奉仕活動の実施 ● 地域との交流や体験を重視した活動の実施 ● 発達の段階に応じた系統的な教育の推進	● 地域とのつながりによる「地域の子ども」としての認知度向上 ● 子どもたちの座学以外の学びの充実
	● 地域の優れた文化活動やスポーツの指導者、様々な分野の専門家と連携した取組の推進	● より広く専門的な体験活動による豊かな情操の涵養
	● 朝読書の継続的な取組や読み聞かせの実施 ● 親子読書の呼びかけの実施 ● 推薦図書の紹介 ● 読書活動のリーダーとなる児童生徒の育成	● 言葉を学び、感性を磨き、表現力を高めるなどの力の向上

	内容	目的及び期待される効果
 ③いじめ・不登校の未然防止	● 「甲斐市いじめ防止基本方針」等に基づく、未然防止・早期発見に重点をおいた取組の推進	● いじめを見逃さず、迅速かつ確実な対応ができる体制づくり
	● 市独自に作成した不登校対策やいじめ防止リーフレットの活用	● 児童生徒の個別の状況に応じた関係者による指導方針の共有と指導力の向上
	● 日頃からの児童生徒の人間関係の把握 ● 定期的なアンケートの実施 ● 学校全体での情報共有及びチームとしての取組の推進	● いじめの未然防止 ● いじめの早期発見、積極的な認知 ● いじめの早期対応、早期解決・解消
	● 年間指導計画に基づく情報モラル教育の実施	● 情報社会の中で生きていくために必要な情報モラルの向上
	● 小中学校生徒指導担当者会における情報交換・情報共有 ● 中学校区を単位とした小中学校、小学校同士の交流の推進	● 中学校入学時の環境の変化から学校生活への不適応を起こす「中1ギャップ」による不登校やいじめの解消 ● 学校間交流による不安の払拭
	● 「オークルーム」の指導体制や環境整備の充実及び学校との連携	● 学習機会の確保や学校復帰の支援
	● スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等を活用した教育相談の充実や、関係機関とのネットワークを活かした支援	● 児童生徒や保護者が持つ悩みへ対応することによる不安の払拭
	● 保護者や地域の関係者と連携した「SOS」の出し方に関する教育の推進	● 自殺の背景にある様々な問題への対処方法の習得
	● ヤングケアラーに関する専門職員（コーディネーター）の設置	● ヤングケアラーの早期発見及び支援体制の構築

	内容	目的及び期待される効果
④生徒指導の充実	心をそろえる整理整頓、心を磨く清掃活動、心を伝えるさわやかなあいさつ、やさしさあふれるありがとうの取組である「甲斐っ子の宝」の推進	- 基本的生活習慣の確立 - 規範意識の向上
	道徳科や特別活動を通じた思いやりや正義感・命を大切にする指導の充実	より良く生きるための基盤となる道徳性の育成
	教員を対象とした生徒指導に関わる研修会や講演会の実施	教員の指導力向上
	警察と連携した指導・支援、犯罪被害等の防止・早期解決の取組の推進	児童生徒の安全な生活と健全育成の確保

	内容	目的及び期待される効果
⑤人権教育の推進	各教科・特別活動における人権教育の実施	お互いを認め、尊重し合える子どもの育成
	「人権啓発教室」、「人権講話」等の取組の推進	一人の人間として思いやりを持ち、お互いを尊重する態度の育成及び意識の醸成
	- 中学校でのデートDV学習会の実施 - デートDVの学習教材等情報提供	あらゆる暴力をなくし、お互いを尊重する態度の育成及び意識の醸成
	小学生を対象とした家庭における男女共同参画推進のための子ども教室の開催	無意識の思い込み(アンコンシャスバイアス)の解消
	小中学生を対象としたジェンダー平等に関する啓発活動やアンケート調査の実施	- 男女共同参画社会の推進 - 性の多様性への理解増進

	内容	目的及び期待される効果
⑥福祉教育の推進	「福祉講話」、「高齢者疑似体験」、「車いす・白杖体験」、「認知症サポーター養成講座」等の実施	- 他者を思いやる心の育成 - 福祉への理解を深め、福祉に関わる実践力の育成

	内容	目的及び期待される効果
⑦環境教育の推進	持続可能な開発のための教育(ESD)の推進	持続可能な社会の担い手の育成
	- 甲斐市環境副読本「わたしたちの街甲斐」の配布 - 小学生とその保護者を対象とした「親子環境ツアー」等の実施	持続可能な社会の構築を目指した環境保全意識の向上



目標となる主な指標

指標	R5年度 の現況値	R11年度 の目標値
「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 85.0% 中 89.8%	小 95.0% 中 95.0%
1人あたりの図書の本の年間貸出数の平均が、小学校120冊以上、中学校30冊以上（16校平均値）	小 110冊 中 15.8冊	小 120冊 中 30冊
地域の人材や施設を活用した授業の実施回数（小：6回以上 中：3回以上）（16校平均値）	—	小 6回 中 3回
「児童生徒のいじめに関する状況調査」における公立学校のいじめ解消率	小 99.3% 中 94.6%	小 100% 中 100%
「長期欠席児童生徒状況調査」における不登校児童生徒の割合	小 2.2% 中 7.6%	小 1.3% 中 5.5%
ヤングケアラーに関する専門職員（コーディネーター）の設置人数	1人	4人

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています



施策項目(3) 健やかな体の育成

現状と課題

体育の授業や学校行事において、ラジオ体操の取組を推進しています。

また、栄養士による、たよりの配付等により、児童生徒の食に関する意識が向上しています。

生活習慣の確立や学校保健の推進等により、子どもたちの心身の健康の増進と体力の向上を図ることが必要です。

目指す方向

学校の教育活動や家庭などの様々な場面で、基礎体力の向上を図るための取組を充実させるとともに、健康や食に関する指導を計画的に実施することにより、健康な生活を送るための土台づくりを推進します。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
①学校教育・体力づくりの充実	● 体育の授業や児童会、生徒会活動などを通じたラジオ体操の推進	● 基礎体力の向上 ● 運動に親しむ態度の育成
	● 体育、保健体育の授業の充実	● 走・投・跳などの動きや泳力といった基本的な技能の習得 ● 生涯にわたって運動に親しんでいこうとする態度、意欲の涵養
	● 児童生徒の体力・健康状態に関する課題等の家庭との共有など、家庭との連携の推進	● 望ましい運動習慣の習得
	● 部活動に関する適切な休養日や活動時間の設定、指導方法の工夫改善の推進	● 生徒の心身のバランスのとれた生活の確保

	内容	目的及び期待される効果
②健康教育・食育の推進	● 楽しく食べる・作る経験を通じて食と健康に対する思考力を育成する取組の推進 ● 郷土食や地域の食材を活用したレシピなどの知識の普及啓発 ● 食への感謝の気持ちや環境に対する問題意識を育む取組の推進 ● 栄養バランス、減塩、地産地消等の学びの体験ができる食育教室の実施	● 食に関する知識と選択する力を取得し、健全な食生活を実践できる人の育成 ● 食の安心・安全の学び ● 食事マナー、食品ロスに対する意識の向上 ● 食への関心や作る意欲の醸成

施策項目(4) 自立した学習者の育成

現状と課題

個別最適な学びが進められるように、子どもが自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう指導を進めています。

多様な他者との協働や自己調整などによって学習を進めていく子ども主体の授業への転換を図ることにより、一人ひとりの関心・意欲や特性に基づいた力を伸ばす学びの実現が求められています。

目指す方向

多様な他者との協働や自己調整などによって、学習を進めていく子ども主体の授業への転換を図ることにより、子ども一人ひとりの関心・意欲や特性に基づいた子どもの力を伸ばす学びを実現します。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
①個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実	- 各教科等の特質に応じた学習の推進 - 多様な他者と協働することの重要性などを実感できる取組の推進 「教師主導」から「子ども主体の授業」への授業観の転換を踏まえた授業の実践	- 学習課題や学習方法を自ら選択し、興味・関心に基づく自主的・自発的な学習態度の育成 - 学習状況を自ら判断し、学習を進める意識の醸成

	内容	目的及び期待される効果
②問題発見・解決能力の育成	- 児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習の推進 - 各教科等において問題の発見・解決に必要な力を身に付けられる教育課程実施上の工夫	自ら学習課題や学習方法を選択し、課題解決できる児童生徒の育成

施策項目(5) 幼児教育の充実

現状と課題

命の大切さを育むため、保育園において児童による植物栽培やセラピードッグでの動物のふれあいを実施しています。

幼児期の終わりまでに育むべき具体的な姿を明確化し、それに向けた教育を実践することが求められています。

目指す方向

相手の話を聞こうとする態度の育成、自分の言葉で思いを表現する自己表現力の向上を図ります。

基礎体力や運動能力の向上を図るとともに、動物とのふれあいや植物の栽培を通して、生命を大切にする心の育成を図ります。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
① 幼稚園・保育園等と小学校との連携	「幼保小の架け橋プログラム」に基づく園児と児童の交流会や職員の意見交換会等の実施 - 体験や友だちとの関わりを重視した活動や各教科のつながりを意識した合科的・関連的な指導を行うスタートカリキュラムの充実	- 幼稚園・保育園・児童館・小学校の連携促進による円滑な小学校教育への接続 - 小学校入学時に新しい環境になじめず、学校生活に不適応を起こす「小1プロブレム」の解消

	内容	目的及び期待される効果
② 自己表現力の育成	- 季節行事などのイベント等を通じて、取組内容や自己感想を発表する機会の充実 - 書道・英語活動といった文字・言語活動や、お絵かき・粘土などの創作活動の活用 - 各園における朝の会・帰りの会や、「うたごえ集会」などの音楽活動での指揮の体験	- 自分の考えを自分なりの言葉で表現しようとする意欲の育成 - 相手の言葉を聞こうとする態度の育成 - 表現することに対する興味・関心や豊かな感性の素地の涵養 - 人前で堂々と自己表現ができる人間形成

	内容	目的及び期待される効果
③ 基礎体力の向上	保育園における遊びを通じた運動の実施	- 基礎体力の向上 - 運動能力の推移の把握及び運動能力の向上

	内容	目的及び期待される効果
④ 命を大切にする心の育成	小動物の飼育、セラピードッグとのふれあい、植物の栽培、自然観察などの動植物とふれあう保育活動の実施	命を大切にできる心づくり



目標となる主な指標

指標	R5年度 の現況値	R11年度 の目標値
公立保育園におけるセラピードッグとふれあう機会の提供（年間延回数）	10回	10回

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています



基本方針2 ふるさとに誇りや愛着を持ち、活躍できる人材の育成

施策項目(1) グローバルに活躍する人材の育成

現状と課題

「わたしたちの甲斐市」「ふるさと山梨」といった副読本を活用し、郷土教育を推進しています。

中学校では各校に1人ずつ、小学校においては2校に1人の割合で、ALTを配置しています。

急速なグローバル化に対応できる語学力及びコミュニケーション能力を身に付け、様々な分野・地域で国際社会の一員として活躍できる人材の育成が求められています。

目指す方向

充実した言語活動や郷土学習等により、日本やふるさと山梨に愛着や誇りを持ち、コミュニケーション能力や豊かな語学力を駆使して国内外で積極的に活躍する人材を育成するとともに、様々な活動を通して、自己肯定感や自己有用感を育み、一人ひとりの子どもたちの可能性や才能の伸長を図ります。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
① 郷土・文化芸術に関する教育の推進	郷土学習教材「わたしたちの甲斐市」や「ふるさと山梨」を活用した郷土学習の推進	郷土に対する関心と理解を深め、誇りや愛着を持てるような心の育成
	郷土の歴史や文化についての理解を深めるとともに、多様な文化の理解と尊重の精神を身に付けたグローバル人材の育成	国際社会の一員として活躍できる人材の育成
	文化関係機関・施設等との連携及び利用促進	郷土の歴史や文化への理解の醸成
	- 学校における伝統や文化に関する学習の機会の創出 - 芸術鑑賞教室などの実施	文化・芸術に関する興味・関心の醸成
	- 学校での諸行事などを通じた合唱・演劇などの文化的・芸術的な表現活動の実施 - 保護者や地域の方々への成果発表機会の創出	文化・芸術活動への興味の醸成

	内容	目的及び期待される効果
② 地方創生を担う人材の育成	市内専門学校との連携協定に基づく、小学校におけるプログラミング教室や相互の事業協力等の実施	高度な知識や専門性を持った教育機関との交流

	内容	目的及び期待される効果
③才能や個性を伸ばす教育の推進	自己肯定感・自己有用感を育む授業・行事・部活動・文化活動等の実施	一人ひとりの持つ才能や個性の発見と伸長
	日常生活や社会との関連付けを大切にした授業の展開	- 基礎的・基本的な知識及び技能の定着 - 論理的な思考力と探究する態度の育成
	- 学校教育活動以外のスポーツ・文化芸術活動により県外大会に出場する小中学生に対する激励金の交付 - 市内高等学校との連携協定に基づく、スポーツや文化、芸術活動等に触れる機会の創出	- スポーツの推進・文化芸術等の振興 - 将来、スポーツ・文化芸術分野で活躍する人材の育成
	- ALT(外国語指導助手)による実践的なコミュニケーション能力を育成するための指導の充実 - 語学力やコミュニケーション能力を育成するための英語検定の支援の実施 - 国際交流事業(学校間交流、姉妹都市交流)の実施	- 異文化理解の促進 - コミュニケーション能力の育成 - 語学力(英語)の向上



目標となる主な指標

指標	R5年度の 現況値	R11年度の 目標値
市内に在住する小中学校児童生徒の英語検定料補助金を活用して受験した児童生徒の割合	—	小 5.0% 中 20.0%

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています

施策項目(2) キャリア教育の推進

現状と課題

教育課程に基づき、総合的な学習の時間等において、職業体験等のキャリア教育を推進しているほか、県の取組であるキャリアパスポートを活用しています。

児童生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な資質・能力を身に付けていけるよう、学年の実態に応じたキャリア教育の推進が求められています。

目指す方向

各学校段階に応じた児童生徒が身に付けたい能力や態度を設定し、児童生徒自身が学ぶことと、自己の将来とのつながりを見通すことができる力を育みます。

また、小学校と中学校が連携した進路学習等の取組の充実を図ります。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
①体系的・系統的なキャリア教育の推進	● 学校の教育活動全体と連携させた体系的なキャリア教育の指導計画の作成 ● 発達の段階に応じた系統的な指導の実施	● 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の習得
	● 地域での奉仕活動やボランティア活動への参加促進	● 地域社会に参画・貢献していこうとする素地の育成
	内容	目的及び期待される効果
②小中連携による一貫した進路指導の推進	● キャリアパスポートの活用を通じて各学校段階での児童生徒のそれぞれの実態に応じた進路指導の目標設定の実施	● 小中が連携した一貫した進路指導の実現
	● 小学校での職場見学や中学校での職場体験など、発達の段階に応じた取組の推進 ● 出前講座や進路説明会等の活用の教育課程への位置づけ	● 自己の将来を考える機会の提供

基本目標2

未来への可能性を拓く学びとスポーツの推進

基本方針1 生涯学習・文化活動の推進

施策項目(1) 生涯学び、活動できる環境の整備・充実

現状と課題

高齢化社会が進む中、生涯にわたって学ぶことができる生涯学習の重要性は一層高まっています。

自由に学習機会を選択し学ぶことができ、その成果が適切に評価される「生涯学習社会」の実現のため、施設整備や学習環境の充実を含めた取組を推進していくことが求められています。

目指す方向

市民が生涯にわたり学び、充実した人生を送れるよう、趣味や教養、新たな知識・技術の習得など幅広い学習機会を提供します。

また、生涯学習施設が快適に利用できるよう、適切に維持管理を行うとともに、関係団体との連携を図ります。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
①生涯学習推進体制の充実	● 社会教育・青少年健全育成・文化財保護等の組織の情報共有及び連携	● 生涯学習推進体制の強化
	● 各種講座・教室等の相互連携	● 市民誰もが自主的・主体的に取り組むことができる生涯学習の推進
	● 幅広い年齢層を対象にした各種講座等の開催	● 知識や技術を習得するための学習活動の提供

	内容	目的及び期待される効果
②多様な生涯学習機会の提供	● 市民ニーズに対応した学習活動や体験活動の実施	● 多様なニーズに対応した機会の提供
	● 社会人向けの講座や教室の企画内容の工夫	● 社会人が働きながら学ぶ機会の提供
	● 甲斐市生涯学習指導者人材バンクの定期的な登録・更新	● 指導者の継続的な確保

	内容	目的及び期待される効果
③生涯学習環境の充実	公共施設個別施設計画による計画的な生涯学習施設の整備・充実	安心・安全に利用できる環境の提供
	コーディネーターとして地域の中で市民の学習活動を支援する役割を担う社会教育士の活用	住民参加の地域づくりの推進



目標となる主な指標

指標	R5年度の 現況値	R11年度の 目標値
市公民館（地域ふれあい館、セミナーハウスを含む）の利用者数	118,976人	123,000人

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています

施策項目(2) 青少年健全育成の推進

現状と課題

近年、社会の変化と価値観の多様化により、青少年事業への意識が低下し、地域活動等への参加人数が減少しています。

次代を担う青少年の健全な育成を推進するため、事業内容を充実し、既存活動を継続することが必要です。

目指す方向

家庭・地域・学校と連携を図り、青少年の健全育成を推進するため、青少年関係団体の支援の充実を推進します。

青少年活動の活性化や健全育成に向けた環境整備についても、取組を推進します。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
① 青少年活動の活性化	● 家庭・地域・学校が連携したジュニアリーダーの確保・育成及びシニアリーダーの活動支援	● 将来、地域で活動する子どもを育成するための人材の確保
	● 多様な年齢・地域・文化の子どもたちが参加する事業の実施	● 集団活動の中での社会性や自主性の向上
	● 地域活動や行事への積極的な参加の促進	● ふるさとへの愛着や誇りの醸成

	内容	目的及び期待される効果
② 青少年関係団体の支援	● 青少年団体が主催する各事業への多面的な支援	● 青少年関係団体活動の活性化
	● 青少年活動に携わる大人を対象とした研修会の開催	● 地域全体で青少年活動に関わろうとする意識の醸成

	内容	目的及び期待される効果
 ③ 青少年を支える環境整備	● インターネットの危険性や適正な使用方法についての周知・啓発	● 不適切な環境への接触防止
	● 夏季休業中に公園や駅周辺を巡回する「愛のパトロール」の実施	● 子どもたちの非行防止 ● 安心して暮らせる地域づくり
	● 不登校・いじめ・非行などの諸問題に関する電話による相談受付やカウンセラーによる家庭教育支援カウンセリングの実施	● 青少年に関する相談体制の確立



目標となる主な指標

指標	R5年度の現況値	R11年度の目標値
青少年育成甲斐市各地区民会議・甲斐市子どもクラブ指導者連絡協議会が主催する子どもを対象とした事業への参加人数	894人	980人
青少年育成カウンセラー配置人数の確保	3人	3人

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています

施策項目(3) 生涯を通じた文化芸術活動の推進

現状と課題

文化芸術活動は、人々がゆとりと潤いを実感しながら心豊かな生活を実現していく上で不可欠なものです。

市民一人ひとりが、生涯を通じて、より質が高く魅力のある文化芸術を鑑賞・体験できる環境づくりが求められています。

目指す方向

市民の価値観が多様化する中、創造的で心豊かな生活を送るために、文化芸術に親しむ機会の充実に取り組みます。

文化芸術活動の鑑賞や発表の機会を広く周知し、市民が参加し、文化芸術に触れる場を創出します。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
①文化芸術の鑑賞・発表機会の充実	● 市内文化施設における芸術鑑賞の機会の提供	● 芸術鑑賞機会の更なる充実
	● 市広報誌・ウェブサイト・SNS等を活用した芸術鑑賞に関する情報提供	● 芸術鑑賞機会の更なる拡大
	● 児童生徒への質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会の提供	● 子どもたちの豊かな創造力やコミュニケーション能力の育成 ● 将来、文化芸術分野で活躍する人材の育成
	● 発表の場としての各種団体が開催する文化芸術活動の周知	● 文化芸術活動への参加者や発表者の増加
	内容	目的及び期待される効果
②文化芸術活動への支援	● 市関係各種文化芸術団体への多面的な支援 ● 地域に根差した文化活動への支援	● 文化活動の拡充・活性化



目標となる主な指標

指標	R5年度の現況値	R11年度の目標値
市生涯学習施設で開催される発表会等の参加人数	9,004人	9,300人

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています

施策項目(4) 歴史文化資産の保存と活用及び継承

現状と課題

市内には、歴史や風土の中で育まれてきた貴重な歴史文化資産が数多く存在しますが、市民の触れられる機会が限られています。

文化財の現状を調査・保存し、地域の歴史や伝統文化に親しめる機会の創出を充実させていくことが重要です。

目指す方向

市民共有の財産である歴史文化資産の保存・活用を計画的に進めるとともに、市民が歴史文化資産に触れる機会を創出し、ふるさとの歴史・文化を次世代へ継承していく取組を推進します。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
 ①歴史文化資産の調査・保存・活用の推進	甲斐市文化財保存活用地域計画に基づく地域に残された歴史資料の総合的・効果的な保存・活用	- 歴史資料の保存・活用 - 文化財を活かした地域づくり
	歴史文化資産を幅広く把握するための調査の推進	- 歴史文化資産の現状の把握 - 歴史文化資産の本質的価値の把握
	子どもたちに対する市内の有形・無形の歴史文化資産に関する学習機会の充実	歴史文化資産の次世代への継承と郷土への誇りの醸成
	- 市民対象の歴史文化講座の充実 - 市広報誌・ウェブサイト・SNS等を活用した市内歴史文化資産の情報発信	- 歴史文化資産の情報発信 - 多くの市民が参画できる機会の創出
	郷土が生んだ学者「山県大弐」の遺徳をしのび、その業績を学ぶ山県大弐書道展や講座の開催	- 郷土の著名な歴史家の業績の継承 - 郷土学習への意欲の向上
	児童生徒、教職員や自治会等への出前授業・出前講座の実施	- 幅広い年代が歴史文化に触れる機会の創出 - 地域を知る学習の充実

	内容	目的及び期待される効果
②指定等文化財の保存管理・継承	- 文化財管理者への助言や負担軽減のための措置の実施 - 地域に残る民俗文化財等の伝統技術の継承支援 - 遺跡等の環境保全への取組の推進	指定及び登録文化財の保存管理・継承の充実

	内容	目的及び期待される効果
③埋蔵文化財の保存と活用	市内の開発事業や公共工事等の計画を踏まえた埋蔵文化財調査の実施及び保存と活用	- 埋蔵文化財の適切な保存及び活用 - ふるさとの歴史文化への愛着と誇りの育成

	内容	目的及び期待される効果
④歴史文化資産の保存 活用施設の整備	● 歴史文化資産の適正な管理を行うことができる施設の整備・充実	● 収集した資料の散逸・破損の防止 ● 多様な学習機会の提供
	● 調査研究、保存管理、教育普及を一元的に行う拠点の整備の検討	● 関係機関による更なる研究と協議による方向性の確立 ● 文化財を守り、活かす取組の支援



目標となる主な指標

指標	R5年度の 現況値	R11年度の 目標値
市民を対象とした歴史文化講座、児童や教職員等を対象とした出前授業等の教育普及事業の参加者人数	1,237人	1,360人

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています

基本方針2 スポーツの推進

施策項目(1) スポーツ事業と活動機会の充実

現状と課題

スポーツ協会加盟団体による各競技の初心者教室の実施や、「KAI SPORTS DAY」の開催により、市民がスポーツに親しむ機会の充実を図っています。

スポーツは、体づくりや運動不足解消など重要な意味を持ちます。また、多くの場面でスポーツの重要性は高まっており、生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境の整備が求められています。

目指す方向

「市民一人1スポーツ」を目標に、スポーツ事業や活動機会の充実を図るとともに、「ラジオ体操のまち甲斐市」の取組を継続実施することで、人生を豊かにするスポーツ環境づくりの充実を図ります。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
①スポーツへの興味と活力の醸成	年齢・経験・性別を問わず、一人で気軽に参加できるスポーツ教室やイベントの企画・実施及び受け入れ態勢の整備	スポーツに参加しやすい環境の整備
	スポーツ団体の活動情報や体験教室、イベントなどの情報提供	- スポーツへの意識向上 - 共感及び同調性の醸成
	時代に沿った新しいスポーツ等の体験ができる機会の提供	新しいスポーツの探求とスポーツの楽しさの普及

	内容	目的及び期待される効果
 ②スポーツを通じた世代間交流と地域活性化	ラジオ体操の推進	- 市民の健康増進 - 世代を超えたつながりや地域間交流の活性化
	市や各実行委員会等が主催するスポーツイベント等の開催	スポーツを通じて広く交流する場の創出
	自治会が行うスポーツ活動の経費の助成	- 市民のスポーツ促進と健康増進 - 交流機会の創出

	内容	目的及び期待される効果
③子どもや高齢者等の体力向上支援	市民プールを活用した事業の充実	子どもの体力の向上と健全な育成
	無理なく楽しめるスポーツ事業の展開	高齢者や障がい者の健康増進
	子どもと高齢者がふれあう事業の実施	体力向上及び世代間交流



目標となる主な指標

指標	R5年度の 現況値	R11年度 の目標値
市スポーツ協会加盟競技団体、専門部で実施した初心者教室への参加者数	952人	1,000人
ラジオ体操事業への参加者数	32,492人	35,000人

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています



施策項目(2) スポーツ参画体制の整備

現状と課題

「ヴァンフォーレ甲府」サクスデーや「山梨クィーンビーズ」ホームタウンゲーム等を通し、“見るスポーツ”、“感じるスポーツ”の機会を提供しています。

また、スポーツ協会加盟団体は増加している一方、スポーツ少年団の登録団員数が減少しています。

スポーツは、「する」だけでなく、「みる」、「ささえる」など、様々な観点の多様な価値を有しています。スポーツは行うだけでなく、応援等、市民一人ひとりが様々な面から参画することができるよう体制を整備していく必要があります。

目指す方向

ライフステージや体力状況に応じた事業を計画し、市民が主体的に参画できるスポーツ環境づくりを目指します。

また、「する」、「みる」、「ささえる」スポーツ体制を構築するため、施設等のハード面、講習会や育成プログラム等のソフト面の支援体制を強化するとともに、それぞれの連携体制の構築を図ります。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
①「する・みる・ささえる」スポーツ体制の支援	● 市内在住のスポーツ有資格者や経験者の発掘及び市が行うスポーツ教室やスポーツ事業への参画の促進	● スポーツ教室やスポーツ事業の質の向上
	● 優秀なスポーツ選手の発掘 ● 指導者の技術向上の促進	● トップアスリートを生み出すための育成環境や基盤づくり
	● 地域のプロスポーツチームの積極的な応援	● 一体感を醸成することによる地域の活性化
	● スポーツ大会の積極的な誘致	● 「見るスポーツ」、「感じるスポーツ」の機会提供 ● スポーツ間交流による意識向上

	内容	目的及び期待される効果
②スポーツ関係団体等への支援	● 市スポーツ協会の普及・発展と競技力向上促進のための助成	● スポーツ推進体制の強化
	● スポーツ推進委員、地域スポーツ普及員及びスポーツ少年団指導者の競技指導力の向上	● 指導者等の質の向上 ● レベルの高い指導の提供
	● 県外で行われるスポーツ大会等に市代表として出場する団体等への経費補助	● 県外のスポーツ大会等への参加支援
	● 「総合型地域スポーツクラブ」の育成と後援	● 行政と地域との連携体制の構築

施策項目(3) スポーツ施設の整備・充実

現状と課題

個別施設計画に基づき、スポーツ施設の改修工事を推進していますが、老朽化が進み、修繕対応が多発しています。

市民が安心・安全にスポーツに取り組むことができるよう、引続き計画的なスポーツ施設の整備・管理を推進する必要があります。

目指す方向

市民一人ひとりが、日常生活の中でスポーツを楽しみながら健康づくりに取り組み、幅広い年齢層の人が安全で快適に利用できるよう、施設の整備・充実を図ります。

また、既存施設についても必要な改修を行いながら、時代に沿った施設としての存続を図ります。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
 ①スポーツ施設の整備・充実	公共施設個別施設計画による計画的な整備・充実	市民が安全にスポーツに親しむことができる環境の確保
	学校体育施設・社会体育施設の開放	スポーツ施設の利用機会の拡充
	新しい時代に沿ったスポーツ施設・設備の検討	新たなスポーツの機会の創出



目標となる主な指標

指標	R5年度の 現況値	R11年度の 目標値
市内スポーツ施設の利用者数	398,554人	400,000人

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています

基本方針3 図書館活動の推進

施策項目(1) 図書館サービスの充実

現状と課題

図書資料等の収集により学びを支援し、各種イベントを開催することにより、市内各図書館の入館者数はコロナ禍以前の状況に戻りつつあります。

学びの場である図書館には、全ての人が平等に利用できるサービスの提供と蔵書の充実が求められています。

目指す方向

全ての人の自主的な学びを支援するため、貴重な地域資料を収集・整理・保存し、充実を図ります。

また、誰もが気軽に利用できる図書館づくりを目指します。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
① 図書館資料の収集・整理・保存	● 図書館資料の総合的・長期的な収集・整理・保存の取組の推進	● 市民の求める新しい情報、必要な資料等の提供
	● 郷土資料、山梨県・甲斐市の行政資料、県人著作資料などの収集・整理・保存の取組の推進	● 郷土の歴史や文化への関心と理解の醸成

	内容	目的及び期待される効果
② 資料提供の充実	● フォントの大きい「大活字本」や、誰もが読書を楽しめるように工夫された「LLブック」、記録媒体による聴覚資料等の充実	● 高齢者や障がい者に対応した情報提供
	● 市内資料配送巡回サービスの周知・活用	● 甲斐市図書館情報ネットワークの充実 ● 資料の有効活用及び利用者の身近な図書館での図書貸出の実現



目標となる主な指標

指標	R5年度の 現況値	R11年度の 目標値
市立図書館の入館者数	349,989人	355,000人

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています

施策項目(2) 図書館事業の多面的推進

現状と課題

図書館は、資料の収集・整理・保存のほかにも、利用者の学びの場、市民の交流の場としても機能しています。

その役割を果たすべく、今後も様々な文化的事業を展開し、広くサービスを提供することが大切です。

目指す方向

様々な文化的事業を通じ、市民の交流や読書の推進を図ります。

また、学校図書館と共有する「甲斐市図書館情報ネットワークシステム」を活用していくことで、学習支援や読書活動の充実を目指します。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
 ①文化活動の充実	「甲斐・本の寺子屋」などの文化活動の推進	乳幼児から高齢者まで、全ての市民の読書推進及び図書館利用推進

	内容	目的及び期待される効果
②学校図書館への支援	公共図書館、学校図書館間の資料利用の推進	- 子どもたちの読書意欲の増進 - 各教科での調査研究のための資料提供 - 甲斐市図書館情報ネットワークの充実
	図書館司書やボランティアによる学校での読み聞かせや図書紹介	子どもたちがより多くの本に触れ、読書に親しむための機会づくり

	内容	目的及び期待される効果
③インターネット利用の充実	インターネットによる電子媒体での資料検索や資料予約などのウェブサービスの充実	利用者にとって利便性の高い環境の整備



目標となる主な指標

指標	R5年度の現況値	R11年度の目標値
「甲斐・本の寺子屋」事業への1回開催当たり平均参加者数	113人	115人

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています

施策項目(3) 子ども読書活動の推進

現状と課題

幼少期からの読書や読み聞かせが子どもの成長に欠かせない重要な過程であることは、広く認知されています。

図書館の利用促進とともに、読書の大切さを子どもや保護者等に伝える啓発活動の継続が大切です。

目指す方向

ブックスタート事業や保育園などへの出張おはなし会の実施により、子どものみならず保護者にも読書の楽しさを伝えていきます。

また、子どもたちの自発的な読書活動につながることを目指します。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
 ①家庭・地域における読書活動の支援	- ブックスタート事業の推進 - 子育てに関わる保護者への読書の啓発活動事業の充実	親子、家庭での読書推進
	- パンフレットや冊子等による情報の発信 - おはなし会による読書活動の実施	より良い絵本選びのための情報提供

	内容	目的及び期待される効果
 ②幼稚園・保育園等における読書活動の支援	- 幼稚園・保育園への団体貸出 - 公共図書館司書による出張おはなし会などの実施	子どもたちの読書環境の充実
	幼稚園教諭や保育士等及び保護者への啓発活動の実施	子どもたちの読書活動の推進

	内容	目的及び期待される効果
③公共図書館・学校における読書活動の充実	公共図書館と学校図書館との連携推進	- 蔵書の充実及び相互間の資料提供 - 甲斐市図書館情報ネットワークの充実
	- 公共図書館の児童担当職員のスキルアップのための研修会の開催 - 図書館ボランティア・読書ボランティアを対象とした研修会の開催	職員・ボランティアのスキルアップ
	幅広い児童書の収集	図書館での資料展示や講演会、おはなし会などの事業の充実



目標となる主な指標

指標	R5年度の現況値	R11年度の目標値
おはなし会・ブックスタート等の実施回数	293回	295回
幼稚園、保育園、児童館等への貸出冊数	17,644冊	18,000冊

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています

基本目標3

誰もが安心して学べる快適な教育環境づくり

基本方針1 多様な教育ニーズに対応した質の高い教育の推進

施策項目(1) 個に応じた指導の充実

現状と課題

誰一人取り残さない教育の実現のため、きめ細かな質の高い少人数教育の推進を図っています。

また、一人ひとりの子どもの可能性を最大限に発揮できる教育環境の構築が求められます。

目指す方向

子どもたち一人ひとりの可能性を最大限発揮できる教育環境の実現を目指し、少人数教育による指導の充実を図ります。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
① 少人数学級編成による学びの充実	● 小中学校における少人数学級編成を生かした指導の充実	● 児童生徒へのきめ細かな指導の充実
	● 習熟度別指導、いじめ・不登校対策など様々な教育課題に対応した教員等の配置	● 児童生徒の状況に応じた教育機会の充実
	● 小学校高学年への教科担任制の円滑な導入と指導の充実	● 義務教育9年間を見通した指導体制の構築

	内容	目的及び期待される効果
② 個別指導の充実	● 長期休業日を利用した「甲斐っ子応援教室」による個別指導の充実	● 児童生徒の状況に応じた学習支援の充実



目標となる主な指標

指標	R5年度の 現況値	R11年度の 目標値
甲斐っ子応援教室に参加した児童生徒の感想アンケートで肯定的な回答をした児童生徒の割合	小中 98.1%	小中 98.1%

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています

施策項目(2) 全ての子どもに対する教育機会の確保

現状と課題

子どもたちの将来が、生まれ育った環境によって左右されることがないように、生活に困窮する子どもの学習機会の確保に取り組んでいます。

生活に困窮する子どもの学習機会の確保や相談体制の充実が必要です。

目指す方向

就園・就学や学習機会確保のための支援を行うとともに、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な就学のための相談体制の整備を行います。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
①就園・就学等に係る費用負担の軽減	- 保育園・幼稚園・認定こども園及び障がい児通所を利用する3歳から5歳までの子どもの法に基づく保育料・利用料の無償化の実施 - 低所得者世帯や第2子以降の3歳未満児に係る保育料・障がい児通所利用料等の負担軽減の実施	就園・療育の支援
	経済的理由により高校や大学における修学が困難な者のうち、成績優秀者に対する奨学金の貸付	経済的理由に左右されない修学の継続
	経済的な理由により就学が困難な児童生徒に対する就学援助費・特別支援教育就学奨励費による支援	経済的理由に左右されない就学の支援
	生活保護受給世帯や生活困窮世帯の中学生を対象とした「甲斐市子どもの学習支援事業」の実施	- 学習意欲及び学力の向上 - 学習機会の平等の確保 - 居場所づくりや日常生活習慣の形成
	学校給食費の独自支援の充実	保護者負担の軽減

	内容	目的及び期待される効果
②就学相談の充実	幼稚園・保育園等への訪問を通じた発達の気になる園児や特別な支援を要する園児の把握	早期からの就学相談の実現
	年間を通じた相談体制の整備	一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導や支援の実現



目標となる主な指標

指標	R5年度の現況値	R11年度の目標値
「甲斐市子どもの学習支援事業」対象世帯に対する生徒の参加率	23.3%	25.0%

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています

施策項目(3) 多様な学びの実現

現状と課題

不登校児童生徒や外国にルーツをもつ児童生徒の増加など、子どもを取り巻く環境は多様化・複雑化してきており、全ての子どもが必要な学びや支援を受けることができる体制づくりに取り組んでいます。

全ての子どもが必要な学びや支援を受けることができるよう、オンライン授業の実施やICTの活用、校内教育支援センターの設置などが求められています。

目指す方向

関係機関との連携により、多様な背景を持った子どもへの対応力を向上させることにより、児童生徒が適切に学べるよう、一人ひとりに寄り添った支援を行います。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
 ①不登校児童生徒の教育機会の充実	- 不登校の児童生徒の再登校の足がかりの場である「オークルーム」の指導体制や環境整備の充実 - メタバースの活用推進	不登校児童生徒の学びの場の確保と学校復帰の支援
	- 校内教育支援センターや別室等を活用した居場所づくり - ICT教材の活用やオンライン授業の実施	児童生徒の個別の状況に応じた学習機会の充実

	内容	目的及び期待される効果
②外国人児童生徒等への教育支援	外国人児童生徒への支援体制の整備	外国人児童生徒の就学促進
	県教育委員会や関係機関と連携した日本語指導等の充実	外国人児童生徒の学習環境の向上
	- 帰国児童生徒の学校生活への円滑な対応 - 帰国児童生徒の海外での学習・生活体験の尊重	帰国児童生徒の個性の伸長支援



目標となる主な指標

指標	R5年度の現況値	R11年度の目標値
不登校児童生徒に対するオークルームの在籍率	小 11.4% 中 11.5%	小 18.9% 中 19.0%
オークルーム利用者のうち、メタバースを利用して学習を行った児童生徒の割合	—	50.0%

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています

施策項目(4) 特別支援教育の充実

現状と課題

共生社会の実現に向け、インクルーシブ教育が推進されている中、継続的な取組を行っています。

特別な支援を必要とする児童生徒の増加に伴い、児童生徒一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導が行えるよう、更なる人材の確保が求められています。

目指す方向

障がいのある子どもと障がいのない子どもが、可能な限り同じ場で共に学ぶことのできる教育環境の充実を図るとともに、個別の教育ニーズに的確に応えることのできる教育を進め、全ての校種において提供できるよう努めます。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
①小中学校における特別支援教育の推進	「通常の学級」、「通級による指導」、「特別支援学級」などそれぞれの場における教育の充実	多様な学びの場の充実と状況に応じた教育の提供
	全ての子どもたちが経験を広め、社会性を養い、豊かな人間性を育むための交流及び共同学習の推進	共生社会の形成を目指したインクルーシブ教育の推進
	全小中学校への学校教育支援員の複数配置	一人ひとりの教育ニーズに応じた適切な支援やきめ細かな指導の推進

	内容	目的及び期待される効果
②特別支援教育における多様な学びの場の体制整備	児童一人ひとりに応じた医療ケアなどの支援	安心して学校生活を送れる環境の整備
	それぞれの職種や役割に応じた資質向上のための研修の実施	様々な障がい特性に対応できる専門性の習得
	医療・福祉等の関係機関と連携した教育支援体制の強化	子どもたちの障がいの多様化や重複化への対応
	- 障がいのある子どもやその家族に関する情報共有を行う「健やかサポート会議」の実施 - 希望する市内保育園・幼稚園・小学校を対象とした「健やかサポート訪問」の実施	- 障がいのある子ども等の支援体制の充実 - 発達気になる子どもの早期発見・早期療育
	関係機関との連携による障がいのある子どもへのキャリア教育の充実	将来の自立と社会参加に必要な力の育成

基本方針2 質の高い教育のための環境整備

施策項目(1) 魅力ある学校を支える指導体制の充実

現状と課題

魅力ある学校づくりを目指し、甲斐市教師力向上総合講座や特別教育講演会を実施し、教職員の実践力向上や共通理解の推進を図っています。

今後も質の高い教育を継続していくため、教職員の確保・資質向上が必要です。

目指す方向

魅力ある学校、特色ある学校づくりのために、研修等を通じて教職員の資質向上を図るとともに、学校評価制度の活用や研究指定校への支援を行います。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
 ①教職員の資質向上	「やまなし教員等育成指標」に基づく「教師力向上総合講座」、「特別教育講演会」等の教員研修の実施	教職員の資質向上、指導力向上
	人事評価制度を通じた意識改革や能力開発の推進	PDCAサイクルに基づく教職員の資質向上
	市教育委員会による学校訪問、甲斐市学校連絡会、甲斐市教頭会等を通じた学校の抱える現状や課題の共通理解	学校と教育委員会が協働した学校運営の充実

	内容	目的及び期待される効果
②特色ある学校づくりへの支援	学校運営協議会や学校評価制度の活用	- 地域住民の意見を反映させた学校運営 - 特色ある学校づくりの推進 - PDCAサイクルに基づく学校運営の改善
	現状の教育課題に係る研究校の指定	学校ごとの特色ある取組の創出

施策項目(2) 学校における働き方改革の推進

現状と課題

学校における働き方改革の推進により一定程度の改善傾向はみられますが、学校が抱える問題が複雑化・困難化する中、教員の長時間労働が常態化しています。

働き方改革のさらなる推進や外部人材の活用等により、適正化を図る必要があります。

目指す方向

学校における働き方改革などの教員の働く環境整備により、子どもたちと向き合う時間を確保し、子どもたち一人ひとりの豊かな学びを実現します。

また、教員以外の専門スタッフや外部人材との連携を進め、チームとしての学校体制の構築や、教員が専門性を発揮した教育活動の展開を図ります。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
 ① 学校における業務の効率化の推進	- 市教育委員会が作成した「多忙化改善計画」に基づく、会議や研修・調査等の縮減 - 各学校が作成した「多忙化改善計画」に基づく、会議や業務の効率化、学校行事や部活動の負担軽減、校内組織の見直し等の推進	- 教員の業務負担軽減 - 業務の効率化の推進
	校務支援システムの活用による学校における事務効率化の一層の推進	- 教員の業務負担軽減 - 教員の質の向上
	- 学校閉庁日、放課後に会議や部活動を行わない「きずなの日」の設定 - 勤務時間管理の徹底	- 教員の意識改革 - 時間外勤務の抑制
	部活動におけるガイドラインに基づいた適切な活動時間や休養日の設定	教員の部活動に係る負担軽減
	休日部活動の地域展開による効果的な指導の推進	- 教員の部活動に係る負担軽減 - 専門的指導の充実

	内容	目的及び期待される効果
 ② 外部人材の活用促進	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、部活動指導員等、多様な専門性を持つ外部人材との連携や役割分担の推進	チームとしての学校づくりの推進
	学校の教育活動を支援する地域人材の育成に向けた取組の推進	支援人材の育成



目標となる主な指標

指標	R5年度の 現況値	R11年度の 目標値
月あたり正規の勤務時間を80時間以上超過する教職員の割合（年平均）	3.2%	0%
「指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか」の設問に「よくしている」「どちらかといえばしている」と回答した教職員の割合	小 90.9% 中 100%	小 100% 中 100%

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています



施策項目(3) 安心・安全な教育環境整備

現状と課題

市内の学校施設の多くは建築からかなりの年数が経過しており、老朽化が進んでいます。
学校施設を計画的に整備し、質の高い充実した教育環境の推進を図る必要があります。

目指す方向

子どもたちが安心・安全に学校生活を送ることができるよう、甲斐市立学校施設長寿命化計画に基づき、時代に沿った学校施設の整備を進めるとともに、定期的な学校施設・設備の点検を実施します。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
①学校施設の整備	- 甲斐市立学校施設長寿命化計画に基づく計画的な老朽化対策の推進 - 照明設備のLED化改修工事などの計画的な実施 - 計画的な修繕の実施	安心・安全で快適な教育環境の整備

	内容	目的及び期待される効果
②学校における教材等の教育環境の充実	授業を円滑に実施するための小中学校の教材・設備等整備の充実	子ども主体の楽しくわかりやすい授業の実現
	地域の特色に合わせた社会科副読本の作成と活用	地域の実態に合った社会科授業の充実

	内容	目的及び期待される効果
③学校安全の推進	- 校舎や屋内運動場等の定期点検、消防設備等の保守点検の実施 - 防犯カメラや施設警備による不審者対策の推進	施設の安定的な維持管理や学校安全の強化
	危機管理マニュアルや避難行動タイムラインの作成・見直し、避難確保計画及び避難訓練の実施	地震や風水害など様々な災害を想定した学校防災体制の構築
	未知の感染症や大規模災害発生時における学び場の保障・方策の検討	緊急時における学校体制確立による児童生徒の学びの機会確保

施策項目(4) ICT活用のための環境整備

現状と課題

ICT環境が整備され、1人1台端末を利用した授業を行っています。

施設設備の更新だけでなく、ICT等を有効的に利用するために、校内で幅広く利用できる環境整備が求められています。

目指す方向

児童生徒の情報活用能力などの学習の基盤となる資質・能力の育成やICTを日常的に活用した学びを推進するため、学校のICT環境の整備・更新を実施します。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
 ①学校のICT環境整備の充実	● インフラ整備をはじめとした情報教育機器の整備 ● 小学校プログラミング教室の実施	● 学習の基盤となる情報活用能力の育成
	● 教育用デジタルコンテンツの整備	● デジタル教材やICTを活用したわかりやすい授業の充実
	● 校務支援システムに関するシステム操作マニュアルの整備や操作研修等の実施	● 校務支援システムの有効活用
	● 教育情報セキュリティの保護	● 児童生徒の個人情報や教育成果等の情報の保護



目標となる主な指標

指標	R5年度の現況値	R11年度の目標値
市立小中学校の高速大容量通信インフラの整備率	65.6%	100%
市立小中学校の普通教室のアクセスポイントの整備率	100%	100%

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています

基本方針3 家庭・地域・学校の連携・協働の推進による地域教育力向上

施策項目(1) 家庭・地域・学校の連携・協働の推進

現状と課題

令和6(2024)年度より、市内全ての小中学校でコミュニティ・スクールの取組が始まっています。
授業参観や学校行事など、保護者や地域住民が学校を訪問できる機会を設けています。
教育は各家庭や学校だけで行うものではなく、地域を含めた教育力の向上が求められており、コミュニティ・スクールを更に充実させ、地域との連携を深めていく必要があります。

目指す方向

子育てについて学ぶ機会の提供や地域で子育てを支援する人材の育成を進め、家庭や地域の教育力の向上を図るとともに、地域ボランティア等を活用し、登下校等の安全確保を図ります。
家庭・地域・学校が、よりよい学校教育を通じて、よりよい地域を創るという目標を共有し、家庭・地域・学校が連携・協働する体制づくりを推進します。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
 ① 地域活動等への子どもの参加促進の支援	● 子どもたちの地域活動や行事への積極的な参加	● 地域を支える一員としての意識の醸成
	● 地域や関係団体と連携した地域活動への子どもたちの参加や地域における体験活動等の支援	● 子どもの地域活動への参加促進

	内容	目的及び期待される効果
② 安心・安全な地域環境・居場所の確保	● 市民・地域・警察・行政が一体となった防犯意識の普及及び啓発 ● 防犯パトロールの実施及び防犯灯(LED灯)の設置	● 登下校時を含む安心・安全な地域づくりの実現
	● 災害時を想定した家庭や地域と連携した防災訓練等の実施	● 地域ぐるみの防災体制の充実
	● 放課後児童クラブ等に関わる担当者及び指導者のための研修会の充実	● 担当者及び指導者の資質向上

	内容	目的及び期待される効果
③子育てに関する学習機会・相談体制の充実	- 子どもの発達や就学、家庭教育に関する相談に対する助言・支援 - 各相談機関との連絡会議等を通じた連携の推進	相談体制の質の向上
	- 子育て中の親を対象とした「子育て教室」、「子育て学習会」の開催 - 子ども体験学習施設（令和8年度に（仮称）篠原地区公園内に整備予定）の新たな子育て支援拠点としての運用	- 育児に関する知識や技術を習得しながら、仲間づくりを行う場の提供 - 気軽に相談できる相談体制の充実 - 親としての学びと育ちの支援
	- 楽しく食べる・作る経験を通じて食と健康に対する思考力を育成する取組の推進 - 郷土食や地域の食材を活用したレシピなどの知識の普及啓発 - 食への感謝の気持ちや環境に対する問題意識を育むための取組の推進 - 栄養バランス、減塩、地産地消等の学びを体験する食育教室の実施	食に関する知識を身に付けることによる地域や家庭の教育力の向上
	食生活改善推進員を対象とした食育に関する学習会の開催	食生活改善推進員の育成

	内容	目的及び期待される効果
 ④地域による教育支援の充実	市内の学校における効果的な取組や実績を各学校が共有できる場の構築	学校の教育活動を支援する地域人材の育成
	公立中学校における休日の部活動の段階的な地域移行	子どもの適正なスポーツ及び文化芸術機会の確保

	内容	目的及び期待される効果
⑤地域とともにある学校づくりの推進	- 学校運営協議会や学校評価制度を活用した保護者や地域住民の意見等を学校運営に活かす取組の推進 - 学校の教育活動に関する地域住民への周知	- 学校や子どもたちが抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組の構築 - 地域住民の意見を反映させた学校運営の充実
	- 授業や行事等、地域住民による学校の教育活動への積極的な参加促進 - 学校が地域のためにできることの検討・実践	学校と地域、子どもたちと地域住民が交流する場づくりの推進



目標となる主な指標

指標	R5年度の 現況値	R11年度の 目標値
「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の設問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小 82.2% 中 67.2%	小 85.0% 中 85.0%

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています

基本方針4 教育分野におけるDXの推進とデジタル社会を担う人材の育成

施策項目(1) GIGAスクール構想の推進

現状と課題

小中学校において、1人1台端末を配備し、ICTを利用することにより、個別最適化された教育の実現を目指しています。

引続き、GIGAスクール構想に基づき、1人1台端末の整備・活用などの環境整備が求められています。

目指す方向

GIGAスクール構想により、整備された1人1台端末が文房具のように日常的に使われ、デジタル教科書やデジタル教材等をより積極的に活用することを通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が実現できる環境整備を進めます。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
①子ども主体の授業づくりを目指したICT教育の推進	授業における1人1台端末の積極的な利用の推進	「子ども主体の授業づくり」の推進
	1人1台端末を活用した授業改善に向けた、教員研修の充実	教員のICT活用能力の向上
	甲斐市ICT教育推進委員会の開催	1人1台端末活用の好事例等の情報共有
	デジタル教科書やデジタル教材の積極的な活用	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進
	- 研修会を通じた教員のICT活用指導力の向上 - 新たな情報技術の適切かつ効果的な活用	DXに関連した学びの充実のための環境整備

施策項目(2) 教育分野におけるDXの推進

現状と課題

市民のニーズが多様化・複雑化し、サービスの質や利便性の向上が求められる中で、教育分野においても、デジタル化による効率化や生産性の向上が課題となっており、今後も更なる推進を図る必要があります。

目指す方向

個々のニーズやライフスタイルに応じた学びを実現し、未来の教育環境をより良いものへと変革するため、デジタル技術を活用し、市民全てが平等で質の高い教育が受けられる環境整備を行うことにより、持続可能（サステナブル）な教育DXの実現を目指します。



施策の内容

	内容	目的及び期待される効果
 ① デジタルデバイド（情報格差）の解消	スマートフォン等の利活用講習会等の開催	- デジタル機器が安心して安全であることの理解促進 - 便利で豊かな生活の実現
	北部地域における行政・災害情報などを公平かつ安定的に配信するためのインフラ環境整備	地域間の情報格差の解消
	内容	目的及び期待される効果
② 行政手続きのオンライン化	- 生涯学習施設やスポーツ施設等の申請・手続きに係るオンライン予約システム等の導入 - 図書館貸出業務に係る効率化の検討 - オンライン申請システムの活用による電子申請手続きの拡充	- 手続きに係る利便性の向上 - 受付事務の効率化



目標となる主な指標

指標	R5年度の現況値	R11年度の目標値
電子申請の手続き件数	144件	169件

※指標の一覧及び詳細は、第6章に掲載しています